

(雑 録) 2008 年 1 月—2011 年 6 月まで

1. 学会誌発表論文

- 1) 清本容子・山田一來・中田英昭・石坂丞二・田中勝久・岡村和磨・熊谷 香・梅田智樹・木野世紀 (2008) : 有明海における透明度の長期的上昇傾向及び赤潮発生との関連. 海の研究, (17), 337-356.
- 2) T. Shikata, S. Yoshikawa, T. Matsubara, W. Tanoue, Y. Yamasaki, Y. Shimasaki, Y. Matsuyama, Y. Oshima, I. R. Jenkinson and T. Honjo (2008) : Growth dynamics of *Heterosigma akashiwo* (Raphidophyceae) in Hakata Bay, Japan. *European Journal of Phycology*, (43), 395-411.
- 3) T. Komorita, S. Shibamura, T. Yamada, R. Kajihara, M. Tsukuda and S. Montani (2009) : Impact of low temperature during the winter on the mortality in the post-settlement period of the juvenile of short-neck clam, *Ruditapes philippinarum*, on the tidal flats in Hichirippu Lagoon, Hokkaido, Japan. *Plankton & Benthos Research*, 4 (1), 31-37.
- 4) A. Tai, T. Saita, S. Yano, Y. Kawamura, T. Noguchi and T. Komatsu (2009) : Change of tidal current in recent years at the head of the Ariake sea, Japan. *Proc. of 3rd international conference on Estuaries & coasts, Sendai*. 175-180.
- 5) T. Mine, S. Tanaka, Y. Kawamura, G. Kobayashi and K. Kanda (2009) : Diversity of incidence factors in Suminori disease during laver cultivation. *Aquaculture Sci.*, 57 (4), 601-608.
- 6) 鈴木健吾・坂本達也・渡辺康憲・輿石裕一・木元克則・吉田幹英・藤崎 博・藤井明彦・那須博史・前野幸男 (2009) : 2003 年から 2005 年までの有明海におけるたいらぎ類の浮遊幼生および稚貝の分布. 水産海洋研究, (73), 161-171.
- 7) T. Fukao, K. Kimoto, T. Yamatogi, K. Yamamoto, Y. Yoshida and Y. Kotani (2009) : Marine mucilage in Ariake Sound, Japan, is composed of transparent exopolymer particles produced by the diatom *Coscinodiscus granii*. *Fish Sci.*, (75), 1007-1014.
- 8) T. Shikata, A. Nukata, S. Yoshikawa, T. Matsubara, Y. Yamasaki, Y. Shimasaki, Y. Oshima and T. Honjo (2009) : Effects of light quality on initiation and development of meroplanktonic diatom blooms in a eutrophic shallow sea. *Marine Biology*, (156), 875-889.
- 9) Y. Yamasaki, T. Shikata, A. Nukata, S. Ichiki, S. Nagasoe, T. Matsubara, Y. Shimasaki, M. Nakao, K. Yamaguchi, Y. Oshima, T. Oda, M. Ito, I. R. Jenkinson, M. Asakawa and T. Honjo (2009) : Extracellular polysaccharide-protein complexes of a harmful alga mediate the allelopathic control it exerts within the phytoplankton community. *The ISME Journal*, 3, 808-817.
- 10) 長副 聡・島崎洋平・松原 賢・紫加田智幸・山崎康裕・吉田幸史・久野勝利・大嶋雄治・本城凡夫 (2009) : 有明海奥部, 塩田川河口海域における物理・化学的要因と植物プランクトンの増殖との関係. 沿岸海洋研究, (46), 141-151.
- 11) S. Nagasoe, T. Shikata, Y. Yamasaki, T. Matsubara, Y. Shimasaki, Y. Oshima and T. Honjo (2010) : Effects of nutrients on growth of the red-tide dinoflagellate *Gyrodinium instriatum* Freudenthal et Lee and a possible link to blooms of this species. *Hydrobiologia*, (651), pp225-238.
- 12) X. Qiu, Y. Yamasaki, Y. Shimasaki, H. Gunjikake, T. Shikata, T. Matsubara, S. Nagasoe, T. Etoh, S. Matsui, T. Honjo and Y. Oshima (2010) : Growth interactions between Raphidophytes *Chattonella antiqua* AND *Heterosigma akashiwo*. *Thalassas*, (27), 33-45.
- 13) T. Mine, S. Tanaka, Y. Kawamura, G. Kobayashi and K. Kanda (2010) : Isolation and application of bacteriophages to Suminori disease control. *Aquaculture Sci.*, 58 (2), 211-217.
- 14) 岡村和磨・田中勝久・木元克則・藤田孝康・森勇一郎・清本容子 (2010) : 有明海北西部における貧酸素水塊と底質がサルボウの大量斃死に与える影響. 水産海洋研究, 74 (4), 197-207.
- 15) Y. Yagi, I. Kinoshita, S. Fujita, D. Aoyama, Y. Kawamura (2011) : Importance of the upper estuary as a nursery ground for fishes I Ariake Bay, Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 91 (3), 337-352.

- 16) 松原 賢・横尾一成・古賀秀昭 (2011) : 有明海佐賀県海域における *Chattonella* 赤潮の発生予察 (短報). 日本プランクトン学会報, (58), 18-22.
- 17) 西濱士郎・坂本達也・内藤 剛・森 勇一郎・藤井明彦・那須博史・木元克則・前野幸男 (2011) : 有明海におけるアサリ浮遊幼生の出現傾向と殻長組成. 水産増殖, 59 (2), 255-264.

2. 各種雑誌等掲載論文

- 1) 増田裕二 (2009) : がんばってます! 水試日記. 養殖, (578), 80-81.
- 2) 首藤俊雄・松原 賢・久野勝利 (2009) : 有明海の栄養環境とノリ養殖. 海洋と生物, (181), 168-172.
- 3) 川原逸朗 (2009) : 有明海の魚介類資源の原状と回復に向けた取組. 情報と統計 (8月号).
- 4) 川村嘉応・本多大輔・有賀有勝 (2009) : 特集「ノリの病気」によせて. 海洋と生物, (185), 599-600.
- 5) 関本訓士・横尾一成・川村嘉応・本多大輔 (2009) : 壺状菌の系統と分類. 海洋と生物, (185), 601-604.
- 6) 関本訓士・横尾一成・川村嘉応・本多大輔・小林未佳・藤武史行 (2009) : 壺状菌の早期検出法. 海洋と生物, (185), 605-610.
- 7) 横尾一成・川村嘉応・東条元昭 (2009) : アカグサレ菌の越夏生態と菌の検出. 海洋と生物, (185), 614-620.
- 8) 三根崇幸・川村嘉応 (2009) : スミノリ病の病徴と発生機序. 海洋と生物, (185), 621-626.
- 9) 藤武史行・久野勝利 (2009) : 有明海 (佐賀県) における養殖ノリの病害の発生. 海洋と生物, (185), 637-638.
- 10) 川村嘉応 (2010) : ノリ網糸に付着するアオノリ対策. 海苔と海藻, (77), 8-17.
- 11) 横尾一成 (2010) : 九州有明海地区 来たる漁期の生産対策. ノリタイムス (9月21日号).
- 12) 川村嘉応 (2011) : ノリ養殖の基本を学ぶ. ノリタイムス (2月1日号).
- 13) 川村嘉応 (2011) : ノリ養殖の基本を学ぶ. ノリタイムス (2月11日号).
- 14) 川村嘉応 (2011) : ノリ養殖の基本を学ぶ. ノリタイムス (2月21日号).
- 15) 川村嘉応 (2011) : ノリ養殖の基本を学ぶ. ノリタイムス (3月1日号).
- 16) 川村嘉応 (2011) : ノリ養殖の基本を学ぶ. ノリタイムス (4月11日号).
- 17) 川村嘉応 (2011) : ノリ養殖の基本を学ぶ. ノリタイムス (5月21日号).
- 18) 横尾一成 (2011) : ノリ漁期対策. ノリタイムス (5月11日号).

3. 研究会・シンポジウム報告書

- 1) 鈴木健吾・前野幸男・藤崎 博・吉田幹英・山本憲一・那須博史・輿石裕一 (2008) : 有明海奥部におけるタイラギ稚貝の分布と底質特性. 平成20年度日本水産工学会, 学術講演会.
- 2) 本多大輔・有賀有勝・川村嘉応・横尾一成・東条元昭・三根崇幸・小谷祐一 (2009) : 平成21年度春季日本水産学会ミニシンポジウム ノリ病気研究の現状と展望. 日本水産学会誌, 75 (5), 907-916.

4. 調査・事業報告書

- 1) 藤武史行・三根崇幸・久野勝利 (2008) : 壺状菌耐性の品種特性評価. 平成19年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業 (I品種判別技術の開発, 原産地判別技術の開発, 遺伝情報の収集・整備) (室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか. 83-85.
- 2) 藤武史行・三根崇幸・久野勝利 (2008) : 有明海における支柱ノリ養殖漁場での特性及び環境条件の把握. 平成19年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業 (I品種判別技術の開発, 原産地判別技術の開発, 遺伝情報の収集・整備) (室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか. 42-46.
- 3) 津城啓子 (2009) : 有明海における大型クラゲ分布調査. 平成20年度大型クラゲ発生源水域における国際共同調査委託事業報告書. 103-108.
- 4) 三根崇幸・松原 賢・久野勝利 (2009) : 人為的交配法による安定的かつ効率的な優良形質導入法及び環境負荷下での選抜技術の開発. 平成20年度水産生物育種における地球温暖化対策のための基礎的研究成果報告書. 西海区水研. 12-14.
- 5) 松原 賢・首藤俊雄・久野勝利 (2009) : 有明海における赤潮及び貧酸素水塊発生機構の解明 有明海におけるシャトネラ赤潮の発生状況, 有明海西部の植物プランクトンの変動の概要. 平成20年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業, 赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業, 貧酸素水塊漁業被害防止対策報告書, 西海区水研ほか. 51-64, 73-78.

- 6) 大隈 齊・佃 政則 (2009) : 有明海域クルマエビ調査結果. 平成 20 年度栽培漁業資源回復等対策事業報告書(社)全国豊かな海づくり推進協会. 479-482.
- 7) 首藤俊雄・久野勝利・松原 賢 (2009) : 色落ち被害発生状況と河川流量及び気象・海況との間の相関関係の把握. 平成 20 年度新たなノリ色落ち対策技術開発事業河川水最適利用技術の開発. 西海区水研ほか. 14-16.
- 8) 首藤俊雄・久野勝利・松原 賢 (2009) : 河川水によってノリ養殖漁場に運ばれる栄養分の平面的な広がりや持続性の把握. 平成 20 年度新たなノリ色落ち対策技術開発事業河川水最適利用技術の開発. 西海区水研ほか. 28-34.
- 9) 藤武史行・三根崇幸・久野勝利 (2009) : 壺状菌病耐性の品種特性評価. 平成 20 年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業 (I 品種判別技術の開発, 原産地判別技術の開発, 遺伝情報の収集・整備) (室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか. 84-86.
- 10) 藤武史行・三根崇幸・久野勝利 (2009) : 有明海における支柱養殖漁場での特性及び環境条件の把握. 平成 20 年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業 (I 品種判別技術の開発, 原産地判別技術の開発, 遺伝情報の収集・整備) (室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか. 47-51.
- 11) 藤武史行・横尾一成 (2010) : 壺状菌病耐性の品種特性評価. 平成 21 年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業のうち「水産物の原産地判別手法等の技術開発委託事業」(室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか. 40-42.
- 12) 藤武史行・横尾一成 (2010) : 有明海における支柱養殖漁場での特性及び環境条件の把握. 平成 21 年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業のうち「水産物の原産地判別手法等の技術開発委託事業」(室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか. 51-56.
- 13) 松原 賢・首藤俊雄・横尾一成 (2010) : 有明海における冬季の赤潮の発生状況. 平成 21 年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業, 赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業, 貧酸素水塊漁業被害防止対策報告書, 西海区水研ほか. 51-70.
- 14) 森勇一郎・伊賀田邦義 (2010) : ノリ養殖と共存させるための二枚貝増養殖手法の検討と評価. 平成 19・20 年度新たなノリ色落ち対策技術開発委託事業のうち二枚貝増養殖技術の開発 成果報告書, 50-59.
- 15) 松原 賢・首藤俊雄・横尾一成 (2011) : 有明海における冬季の植物プランクトンの変動. 平成 22 年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業, 赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業, 貧酸素水塊漁業被害防止対策報告書, 西海区水研ほか. 63-78.
- 16) 三根崇幸・藤武史行・横尾一成 (2010) : 人為的交配法による安定的かつ効率的な優良形質導入法及び環境負荷下での選抜技術の開発. 水産生物育種における地球温暖化対策のための基礎的研究 平成 21 年度研究成果報告書. 西海区水研. 15-16.
- 17) 首藤俊雄・横尾一成・松原 賢 (2010) : 色落ち被害発生状況と河川流量及び気象・海況との間の相関関係の把握. 平成 21 年度新たなノリ色落ち対策技術開発事業河川水最適利用技術の開発. 西海区水研ほか. 13-17.
- 18) 首藤俊雄・横尾一成・松原 賢 (2010) : 河川水によってノリ養殖漁場に運ばれる栄養分の平面的な広がりや持続性の把握. 平成 21 年度新たなノリ色落ち対策技術開発事業河川水最適利用技術の開発. 西海区水研ほか. 25-36.
- 19) 藤崎 博 (2011) : ノリ養殖と共存させるための二枚貝増養殖手法の検討と評価. 平成 21 年度新たなノリ色落ち対策技術開発委託事業のうち二枚貝増養殖技術の開発成果報告書, 68-75.
- 20) 三根崇幸・横尾一成 (2011) : 人為的交配法による安定的かつ効率的な優良形質導入法及び環境負荷下での選抜技術の開発. 水産生物育種における地球温暖化対策のための基礎的研究 平成 21 年度研究成果報告書. 西海区水研, 15-17.
- 21) 松原 賢・首藤俊雄・横尾一成 (2011) : 有明海における冬季の植物プランクトンの変動. 平成 22 年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業, 赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業, 貧酸素水塊漁業被害防止対策報告書. 西海区水研ほか. 63-78.
- 22) 三根崇幸・横尾一成 (2011) : 壺状菌病耐性の品種特性評価. 平成 22 年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業のうち「水産物の原産地判別手法等の技術開発委託事業」(室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか. 44-48.
- 23) 三根崇幸・横尾一成 (2011) : 有明海における支柱養殖漁場での特性及び環境条件の把握. 平成 22 年度漁場環境・水産資源持続的利用型技術開発事業のうち「水産物の原産地判別手法等の技術開発委託事業」

(室内培養試験による評価法の開発) 報告書, 西海区水研ほか, 57-62.

- 24) 藤崎 博 (2011): ノリ養殖と共存させるための二枚貝増養殖手法の検討と評価. 平成 21 年度新たなノリ色落ち対策技術開発委託事業のうち二枚貝増養殖技術の開発成果報告書, 68-75.

5. 学会口頭発表

- 1) H. Tsutsumi and M. Tsukuda (2008 年 1 月 6 日): Mechanisms of collapse of dense patches of short neck clam, *Ruditapes philippinarum*, in the 1980s to 1990s and recovery of the population on the tidal flats in the east coast of Ariake Bay, Kyushu Japan. The First International Symposium on Asari Clam-Stock enhancement and management. Satellite symposium of 5th world fisheries congress.
- 2) 首藤俊雄・久野勝利・松原 賢 (2008 年 9 月 28 日): ノリ色落ちと内湾域の栄養塩動態 一有明海の栄養塩環境とノリ養殖一. 日本海洋学会秋季大会シンポジウム.
- 3) M. Tsukuda and H. Tsutsumi (2008 年 10 月 25 日): Population dynamics of short neck clam, *Ruditapes philippinarum*, on Kikuchi River Tidal Flat in Ariake Bay, Kyushu Japan. The First International Symposium on Asari Clam-Stock enhancement and management. Satellite symposium of 5th world fisheries congress.
- 4) H. Tsutsumi and M. Tsukuda (2008 年 10 月 25 日): Mechanisms of collapse of dense patches of short neck clam, *Ruditapes philippinarum*, in the 1980s to 1990s and recovery of the population on the tidal flats in the east coast of Ariake Bay, Kyushu Japan. The First International Symposium on Asari Clam-Stock enhancement and management. Satellite symposium of 5th world fisheries congress.
- 5) 三根崇幸 (2009 年 3 月 27 日): フェージによる防除. 日本水産学会ミニシンポジウム.
- 6) 横尾一成 (2009 年 3 月 27 日): アカグサレ菌の越冬生態と PCR 法による探索. 日本水産学会ミニシンポジウム.
- 7) 木元克則・吉田幹英・松原 賢・北原 茂・高日新也・柴原芳一 (2009 年 12 月 11 日): 有明海における

Chattonella 赤潮の発生状況. 日本海洋学会, 2009 年度九州沖縄地区合同シンポジウム「2009 年に発生した九州周辺海域の特異現象」.

- 8) 松原 賢・首藤俊雄・横尾一成・川村嘉応・野口敏春 (2010 年 3 月 29 日): 有明海佐賀県海域における Chattonella 赤潮の発生と環境要因の関係. 平成 22 年度日本水産学会春季大会.
- 9) R. Beltrão, H. Ueda, M. Monde and T. Shuto (2010 年 11 月 6 日): Seasonal and Interannual Changes of Copepod Assemblage in the Inner Part of Ariake Bay from 2003 to 2007. The 4th international symposium on kuroshio science, 高知大学.

6. 講演 (一般向け)

- 1) 川村嘉応 (2009 年 5 月 9 日): 自然体験交流会一有明海と森林との関係, 有明海に生息する動植物, 魚類等の現状一. 佐賀市環境教室, 諸富町, 小学生約 70 名.
- 2) 川村嘉応 (2009 年 5 月 29 日): 有明海の生物. 小城市芦刈町, 小中学生約 100 名.
- 3) 増田裕二 (2009 年 6 月 18 日): 有明海の生物について (大詫間支所青年部課外授業). 佐賀市富士町北山小・中学校, 小・中学生約 50 名.
- 4) 増田裕二 (2009 年 7 月 2 日): 有明海の生物について (鹿島市支所青年部課外授業). 鹿島市七浦小学校, 小学生約 100 名.
- 5) 川村嘉応 (2009 年 7 月 7 日): 有明海の状況とノリの生態. 佐賀市下水処理センター, 漁業者・下水道職員.
- 6) 増田裕二 (2009 年 8 月 11 日): 有明海の生物について (大詫間支所青年部課外授業). 「夏休みおもしろ雑学講座」スポーツパーク川副体育センター, 一般親子約 100 名.
- 7) 川原逸朗 (2009 年 8 月 11 日): 水産資源の回復に向けた佐賀県の新たな取組～有明海水産資源回復技術確立事業について～. 有明海漁協支所運営委員研修会.
- 8) 松原 賢 (2009 年 8 月 19 日): 有明海佐賀県赤潮の発生. 所内勉強会.
- 9) 増田裕二 (2009 年 8 月 21 日): 有明海の生物について (鹿島市支所青年部課外授業). 鹿島市浜小学校, 小学生約 100 名.
- 10) 川村嘉応 (2009 年 9 月 5 日): 有明海湾奥部におけるサルボウ資源の過去, 現在, 未来, 有明海再生講

演会.

- 11) 川原逸朗 (2010年2月11日): 有明海の貝類資源の回復に向けた取組の現状—タイラギやアゲマキなど—, 有明海再生講演会.
- 12) 川原逸朗 (2010年2月15日): 西部漁場におけるタイラギの発生とその要因について—, 有明海再生機構生産分科会.
- 13) 松原 賢 (2010年3月30日): 有明海佐賀県海域における *Chattonella* 赤潮の発生と環境要因の関係, 所内勉強会.
- 14) 横尾一成 (2010年3月31日): 平成21年度佐賀県赤潮発生と色落ち, 有明海講演会「有明海のなぜ, シンポジウム」.
- 15) 川村嘉応 (2010年5月29日): 自然体験交流会—有明海と森林との関係, 有明海に生息する動植物, 魚類等の現状—. 佐賀市環境教室, 諸富町, 小学生約70名.
- 16) 鷺尾真佐人 (2010年8月5日): タイラギの生態と近年の資源状況の推移, 有明海漁協支所運営委員研修会.
- 17) 荒巻 裕 (2010年5月29日): タイラギの生態とその資源状況の推移, 有明海講演会「有明海のなぜ, シンポジウム」.
- 18) 川村嘉応 (2011年1月27日): 栄養塩添加技術に関する知見と佐賀県実施状況, 香川県ノリ色落ち改善技術開発検討会.
- 19) 中牟田弘典 (2011年6月30日): アユの冷水病について, アユ放流と冷水病の勉強会.